



金光寺寺報
 第222号
 発行所 金光寺
 宮崎県西臼杵郡
 五ヶ瀬町大字鞍岡
 5927番地
 ☎ 0982
 83-2338

▲ 盆栽仕様のピラカンサ、見事です！（橋本 榮さん宅・12月7日撮影）

今月法語カレンダーのことば

信心あらんひと むなしく生死にとどまることなし

「本願力にあひぬれば むなしくすぐるひとぞなき 功德の宝海みちみちて 煩惱の濁水へだてなし」

これは『高僧和讃』のなかの「天親」讃、天親菩薩を讃えられた和讃の一首です。「あひぬれば」は、漢字で書けば「遇」という字になります。親鸞聖人はこれを、「『遇』はまうあふといふ。まうあふと申すは、本願力を信するなり」と解釈されるように、本願力を信する身になれば、ということです。続いて、その結果を「むなしくすぐるひとぞなき」と述べられるように人生を虚しく過ごす人がいなくなると示されます。そして、阿彌陀さまの功德の海水に私たちの煩惱の濁った水が溶け込めば、海水と濁った水の区別がつかなくなり一つ味になると譬えられます。

篠崎久蔵という方がお念仏の教えを聴いてこられたなかで詠まれた詩があります。

「難有りを、下から読めば有り難い」。苦難を何度も味わうことと有り難いと思えることは、決して別々のものではない。お念仏の教えに生かされる人にとって、苦難が苦難に終始しないで、有り難いと受け止められる心が芽生えていくことを、この詩が教えてくれています。

私たちは何度も思いどおりにならないことに出会い、苦しい目に遭わなければならないとき、愚痴・不平を言いながら寂しく人生を終えていくのではなく、何事も「お陰さま」「有り難い」と受け止めていく心ができあがったならば、これほど頼もしく充実したものはありません。「むなしく生死にとどまることなし」とは、そのような人生を指し示した言葉であるといえましょう。

(本願寺出版社刊「大乘」誌掲載
『月々のことば』より抜粋 転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き仏事は休みます。よろしくお願ひします。

- 2020年
- ◎ 1月 28日(火) 終日
 - ◎ 2月 17日(月) 終日
 - ◎ 3月 20日(金) 終日
22日(日)～26日(木)

11月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2019年11月 5日 満74歳
熊本市 長澤 初子 様

2019年11月13日 満99歳
荻原 興 栞 千エミ 様

ホームページ開いています。
 URL <https://konkouji.jp/>
 12月7日現在アクセス数 96,507人

仏教名言ノート

会うは別れの始め

三月、四月は歓送迎会のシーズンです。卒業、入学、退社、入社、転勤、退任、就任など、年度がわりのために人の往来が多く、別れや出合いの季節ですね。

会うは別れの始め
 この諺(ことわざ)は中国の白居易(はくきよい)の詩文集『白氏文集(はくしもんじゅう)』にある「合者離之始」を口語訳したものです。その思想の源(みなもと)は仏教です。『遺教経(ゆいきょうぎょう)』に

「世皆常なく、会えばかならず離るることあり」とあるのをはじめ、いろいろな仏典に「会者定離(えしやじょうり)」が説かれ、人生無常を示しています。

『平家物語』は「生者必滅(しょうじふめつ)、会者定離(えしやじょうり)なり」といいます。四苦八苦(しくはくく)の中に、「愛別離苦(あいべつりく)」があります。

この世では、愛するものといずれは離別するという苦しみがあり、会った人とはいつかはかならず別れ去るといふ苦しみがある、という意味の言葉です。

「会うは別れの始めとは知らぬ私じゃなけれど」という歌がありました。

「はじめより、あふはわかれと聞き

ながら、暁(あかつき)知らで人を恋らうていか)は詠(うた)います。

「会者定離」という厳然たる真理と、いつまでも別れたくない」という願いとの間にある矛盾が、「愛別離苦」という苦悩を生み出しています。

「俱会一処(くえいつしよ)」という言葉が、『阿彌陀經(あみだきょう)』にあります。同じ信心に生きた人びとは、みなお浄土という一処において、あいまみえることができる、という意味だと教えていただきました。

とても暖かく、心安らかな世界が開けるのです。

(本願寺出版社発行
辻本敬順著
「続・仏教名言ノート」から)

任職ひとりごと

たしを病を雄いののポだす食た見ケポだい「波れとしかに的らをうこする
 だた実・思さ`で寺のな`べ目てビ1きのポ帰に思な再な到以本忘ととる
 す`感死いん波す報実と思は食ガとまでポのなりつが々と着外堂れすをよ
 °ポしの出の帰がでを思わとアベキいし食の小高ユキ工さん
 (ポた四し顔地す紹いっず食ケてとうたべ実な高ユキ工さん
 住とポ苦まを区っ介たた確感ビ納もそ`てがな高ユキ工さん
 職てポのし見のかしだこかはに得いう標`な高ユキ工さん
 もの中たて恩りよいとに柿似しうで準とっ高ユキ工さん
 松お実`°ポ講忘うたでアにてまうそす和届た、工さん
 井いの`生ポでれと時しケ似いしう`名け、工さん
 しご老・の小て思にたビてまたで別はておん
 か縁苦老こ高しっは`ガいす`す名ポいいか
)っで`と岩また次ポキま`見が、ア1たしら